青森県議会 第327回定例会（令和８年９月）

明日に向かって

県政活動リポート

報告リポート　No.76

工藤　兼光
ホームページ
はこちらから

喜びも悲しみも分けあって支え合い、共に生きる社会の実現に向けて



9月10日、議会開会お昼のひと時、仲良し3人組知事室へ。
鰺ヶ沢町を始め各地の大雨被害、物価高騰対策の強化、米価の下落問題等を話す。

弘前選出、菊池勲議員　　宮下宗一郎知事　　十和田選出、田中順造議員　　西郡選出、工藤兼光議員

ごあいさつ

青森県議会第327回定例会は9月10日開催され10月1日閉会の22日間と決まり、 今回の補正も、6月補正予算による対策を実施していますが更なる追加対策により、物価高の影響を大きく受けている方々に、切れ目ない支援を実行するものです。その主なるものは、 「子育て世帯食料費支援事業」「生活困窮者に対する灯油購入費助成事業費補助」また「県立学校燃料等価格高騰対応経費」「農業物価高騰対策緊急支援事業」等であり補正予算規模は161億5050万円余であります。この他常任委員会の取組や、政務調査活動など掲載しています。

つたない報告ではございますが、ご高覧頂き、引き続き皆様方の貴重な声を届けて下さい。



春は広大な緑の大地、今は黄金のつがる平野。

青森県議会議員

工藤兼光

皆様のご意見、ご要望をお寄せください。

〒038−2712　青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字長平町字甲音羽山59−2
ＴＥＬ 0173−72−1224・ＦＡＸ 0173−72−1233

討　議　資　料

「 農林水産省へ要望活動 」

青森県議会農林水産委員会は、県と両輪で7月8日、農林水産省を訪問し、要望活動を行いました。委員会からは、委員長、副委員長始め委員全員の8人と、執行部側からは農林水産部、栗林豊部長、長内秀揮農林水産政策課長、農水課長、農産園芸課長、水産課など農林水産部関係課、議会事務局2名など一行は「広瀬建、農林水産大臣政務官」室に入り、ご挨拶を済ませ、要望書を手渡し写真におさまりました。そして要望の内容の説明に入りました。　農、水産、畜産、林業合せて26項目であります。

その中の一つ目は「地域の実情に応じた新たな水田政策の実施」です。
令和9年度からの新たな水田政策では、生産者が安心して営農計画を描く事が可能となる充実した制度設計と、十分な予算の確保についてです。



みんな揃ったところで集合写真



テーブルに着いて、一項目づつ説明をし政務官からご回答を頂きます 。

二つ目は「燃料油や肥料、生産資材等の安定供給及び価格高騰対策」です。
中東情勢の緊迫化に伴い、本県の農林水産業においても、燃料油や石油由来の生産資材等の需給や価格高騰について、今後も動向が不透明で供給不足が懸念されていることから、 農林漁業者の経営安定に資する対策の充実について等ほか24項目です。





こうした中、県議会では県と一体となって、備蓄米の早期買戻しなどを農林水産省に要望してきました。その後に、今後の稲作と米価のあるべき姿について県の栗林農林水産部長と議論しました。部長からは、農家が再生産できるよう、米価には、生産コストの高騰がしっかりと反映される必要がある。その一方で、消費者の負担が大きすぎると、需要の減少につながる為、「生産者の持続可能性」と「消費者の納得感」の両立が重要との説明がありました。 また引き続き、全国知事会や東北各県などとも連携の上、国に対し、米の需給と価格の安定に向けた対策を強化するよう働きかけるとともに、県としても地域に寄り添った施策を展開していくという力強い言葉を頂きました。


実りの秋を間近の9月2日の大雨、山から土砂流れ
1町2反の水田が全滅、足取り重くあぜ道を歩く生産者。


実りの秋を迎えましたが、米価の下落に肩を落とす。

「9月2日未明、線状降水帯、鰺ヶ沢町大雨災害」



上流部はV字状の谷間となっており、山あいから流れる小川が住宅地のすぐ裏手を沿うように続いています。大雨の為地滑りが起きて川をふさぎ、行き場のない雨水は道路にあふれ出し、勢いを増して下町へと流れ出しました。

9月3日、朝9時ごろ撮影

９月２日未明鰺ヶ沢町の上空に線状降水帯が発生し、あっという間に大きな災害に遭ってしまいました。不幸中の幸いと申しましょうか、人的被害がなかった事は何よりだと思います。災害に遭われた鰺ヶ沢町をはじめ津軽のすべての方々にお見舞い申し上げます。

即急の復興復旧はもとより、床下、床上浸水された方々、また農作物被害に遭われた方々にも少しでも支援できるよう、農林水産委員会としても頑張ております。

最近は特に線状降水帯による大雨災害が多くなっている現状にあります。私達は常に防災意識を共有し、町内集いの場に於いても、想定外を想定し、地域の弱い所はどこにあるのか、どうすればよいのか、話し合いをしておくことが大事だとおもいます。





西北県土整備事務所、垂井祐司所長と



災害復旧復興をはじめ、各地域からの要望の数々、暮らしやすさの充実に向けてスムーズにスピード感をもって取り組むことを確認する。特にこの度の大雨災害については通行止めとなっている、鰺ヶ沢町道中村長平線は、町単独復旧は困難であり県が代行して工事が進められております。

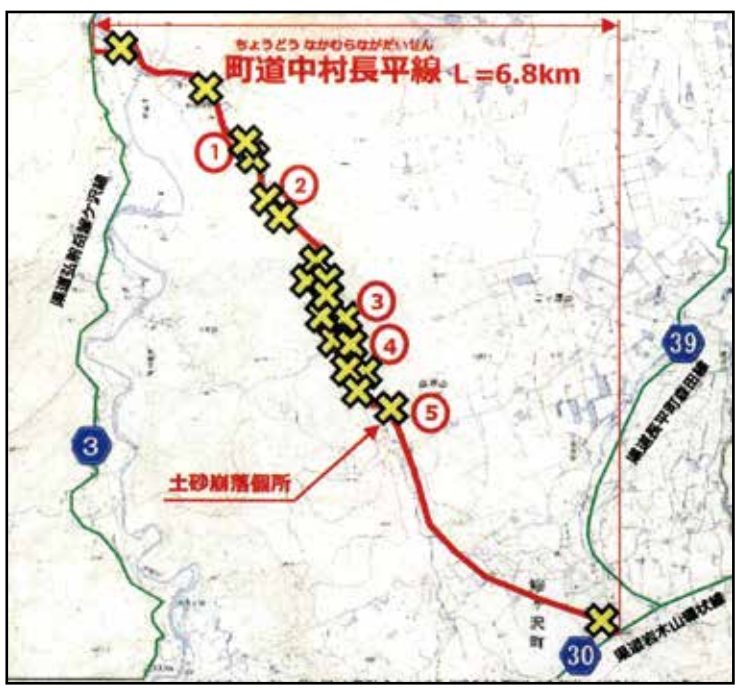
またこの他、鰺ヶ沢町の県代行事業は今も工事が進められている、深谷黒森線、平成27年2月の土砂崩れの「赤石渓流線道路改良事業」令和4年8月に発生した大雨災害による町道山子線（開晴橋）、そしてこの度と県執行部側には感謝の一言であります

鰺ヶ沢町道 中村長平（なかむらながだい）線 被災状況

9月2日未明の大雨の影響により、町内19か所で大規模な土砂崩れが発生しました（被害額：約4億5,000万円）。現在も通行止めが続いていますが、県の代行事業として復旧工事を進めており、年内の片側交互通行の開始を目指しています。

写真協力は、県土整備部





- ○被災箇所　N＝19箇所
- ○復旧費用　C＝約4.5億円
- ○迂回路　県道弘前岳鰺ヶ沢線
  県道岩木山環状線











「深浦港維持管理事業」

９月３日午前中、木村代議士と３区県議団で、２日の未明降り出した大雨被害の鰺ヶ沢町の調査、お昼過ぎに終わり、その後私は深浦町役場を訪ねました。そして深浦町の大雨被害状況の説明の中で、緊急を要する所はなかった事を話してくれました。

その後平澤町長は深浦港は県管理、町長を務めた父・平澤敬義の時代から長年地域を見守ってまいりましたが、深浦港には沢山の施設があり、あれから35年余りメンテナスか、新設か、または撤去するか動き出している旨のお話を頂きました。また、追良Ⅱ期バイパスについても、着工以来長い年月が過ぎている事もご指摘があり、岩崎バイパスについても、地域住民の懸案事項でもある事から、スピード感を持った取り組みを強く求められました。


町長室で平澤町長から要望を受ける

そして今年は特に線状降水帯が全国的に多く、災害が沢山発生している国土強靭化に全力で努めなければ、と共有した所です。

維持管理事業が進められている深浦港全景（ドローン撮影）



県土整備部資料から



令和８年８月31日着工式、式典で鍬入れセレモニー、
平田町長、谷川市長、奥田副知事、木村代議士、他関係者の皆さん。

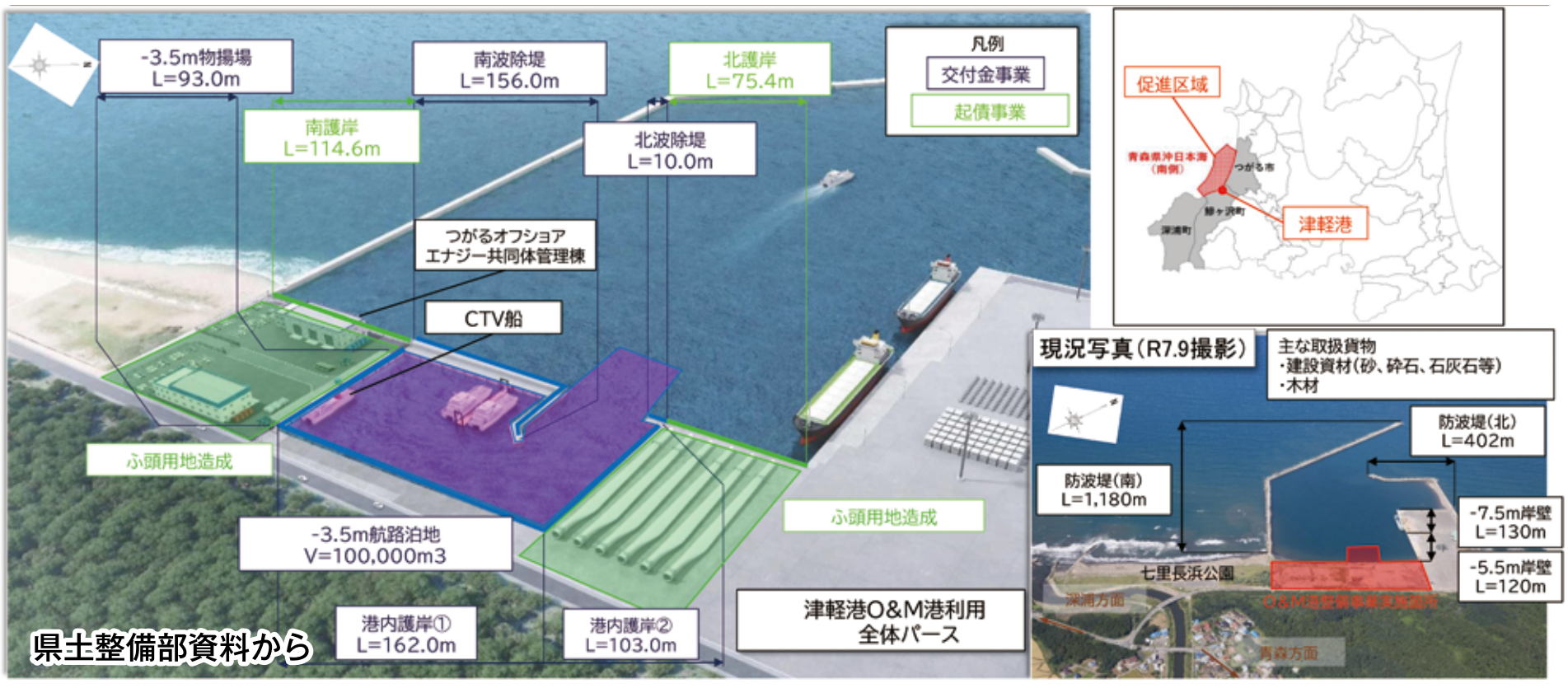
「 津軽港の歴史と整備 」

港の建設は昭和58年に「当時は七里長浜港」津軽地域総合開発の拠点港として着手されました。その時の齋藤禮次郎鰺ヶ沢町長の演説の中には、やがて環日本海時代を迎える、ロシア、ウラジオストクまで700キロ、韓国、釜山まで1000キロと環日本海地域との国際交流拠点港としても発展して行かなければいけない、当然の事、文化も入って来る、演劇もそして観光も、また、同時5か国、国際会議の場も必要と「日本海拠点館」を建設し、 これまで発展を続けて来たのです。

津軽港洋上風力発電オペレーション&メンテナンス港整備事業

津軽港にもう一つの顔として、この工事は令和7年度から始まっています。津軽港から浚渫されて積みあがった砂の山はどんどん運び出され、一方では護岸に使用されるブロック等が製造されています。事業者は青森県で、事業費は40億円、2029年完成、洋上風力運転開始は2030年６月予定との事です。

多いに経済効果が期待され、地元受注による直接効果、地元企業の事業拡大、数十人程度の雇用が期待されるとの事であります。

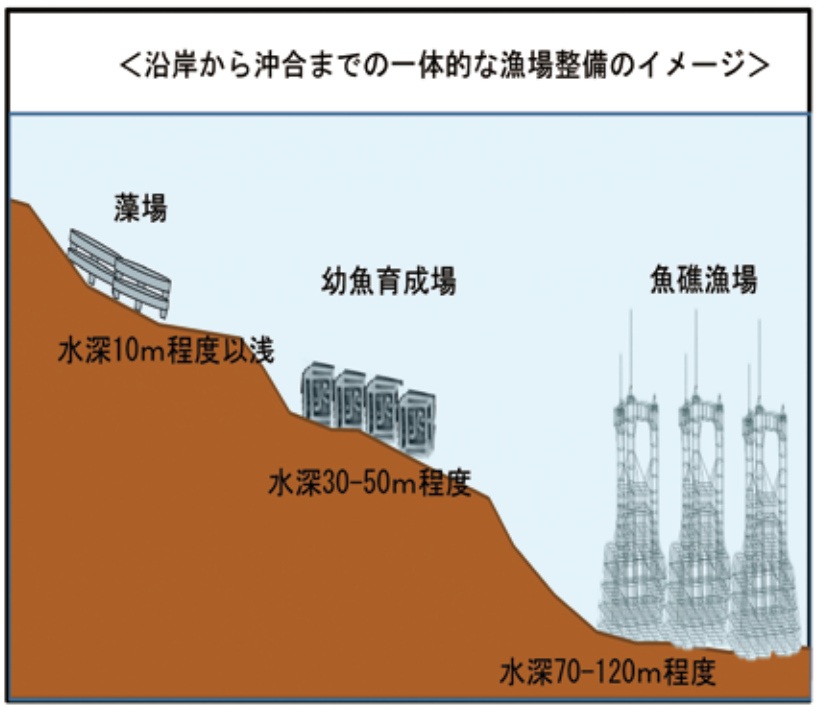


豊かな生態系の創造と海域の生産力向上に取り組む
青森漁港を調査「 農林水産委員会 」

魚類の産卵や稚魚の育成の場となる藻場をはじめ、幼魚の育成場、成魚が生息する漁礁漁場など、沿岸から沖合まで一体的に整備し、水産資源の増大と漁獲量の安定、向上を図るとしアワビ、ナマコ、コンプ等の発生及び生育と魚類の産卵や幼稚魚の育成に適した環境を創出する為に投石やコンクリートブロック等の漁場を創りあげる。

豊かな漁場を創る為に、日夜努力を続ける
皆さんに、感謝、感謝です


説明を聞く、農林水産委員会



○増殖場（幼魚育成場）の整備

幼魚の育成場となる育成礁を設置。また、ヤリイカの産卵場ともなる。




育成礁に集まる幼魚

○魚礁漁場の整備

成魚の漁獲場となる魚礁を設置


県水産振興課資料から


魚礁に集まる成魚